

集めて今年で25年。学んだ人数は約130万人(43カ国1地域)に。

ユネスコ世界寺子屋運動 書きそんじハガキキャンペーン 2016 開始

-25年目を迎え、活動実績、都道府県ランキング等これまでの各種統計データも公表いたします-

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、12月から「ユネスコ世界寺子屋運動 書きそんじハガキキャンペーン 2016」を実施いたします。当連盟は、戦争や貧困など、さまざまな理由で教育の機会に恵まれない子どもや大人のために、「学びの場＝寺子屋」を世界に広げていく「ユネスコ世界寺子屋運動」の一環として、ご家庭に眠っている“タンス遺産(※)”を募金にかえる活動を行っており、1990年のキャンペーン開始以来、今年で25年目を迎えます。年賀状シーズンとなる12月からは特に書きそんじハガキの回収を目的としたキャンペーンを展開しております。

世界に5,800万人もいる学校に行けない子どもたちのために。6人に1人といわれる読み書きができない15歳以上の大人たちのために。この冬うっかり書きそんじてしまったハガキをはじめ、タンスの中に眠った遺産を、世界の人々の学びの支援にかえることができます。ご家庭の書きそんじハガキで、ユネスコ世界寺子屋運動にご協力ください。

※書きそんじてしまった郵便ハガキ、使っていない切手や、プリペイドカードなど家庭に眠っている換金ができるもの。



【本件に関するお問い合わせ先】

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 海外事業部 本間・鴨志田

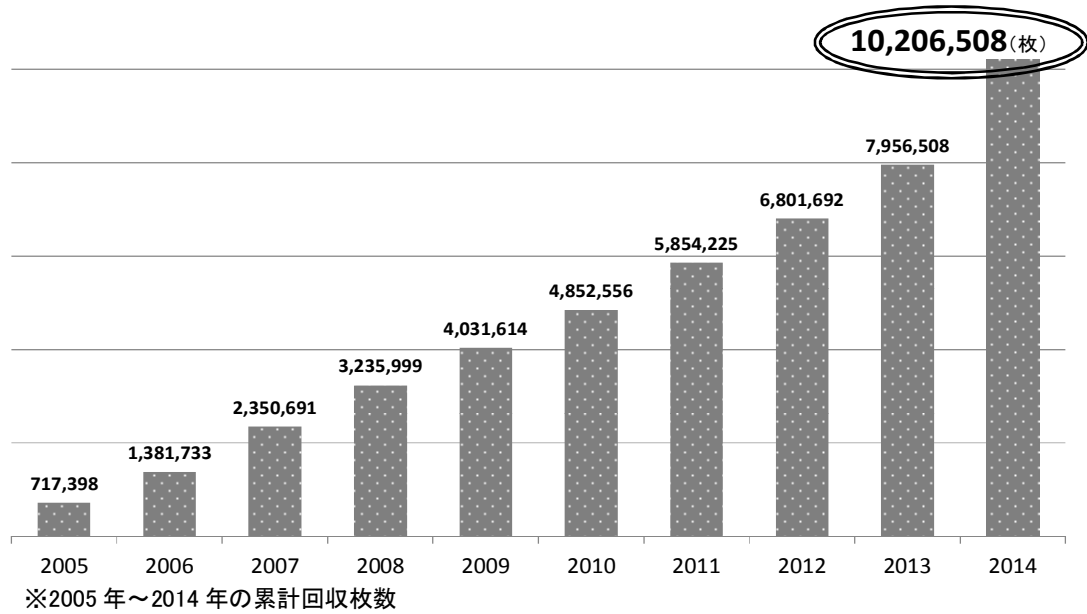
TEL:03-5424-1121/FAX:03-5424-1126/E-mail:nfuaj_web@unesco.or.jp

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 1-3-1 朝日生命恵比寿ビル 12 階

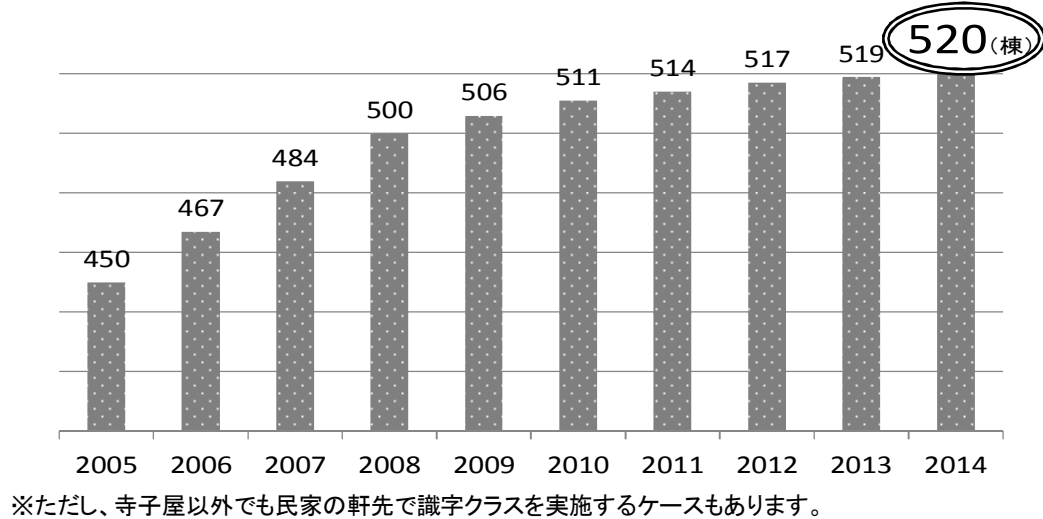
URL: <http://www.unesco.or.jp/>

25年の活動実績

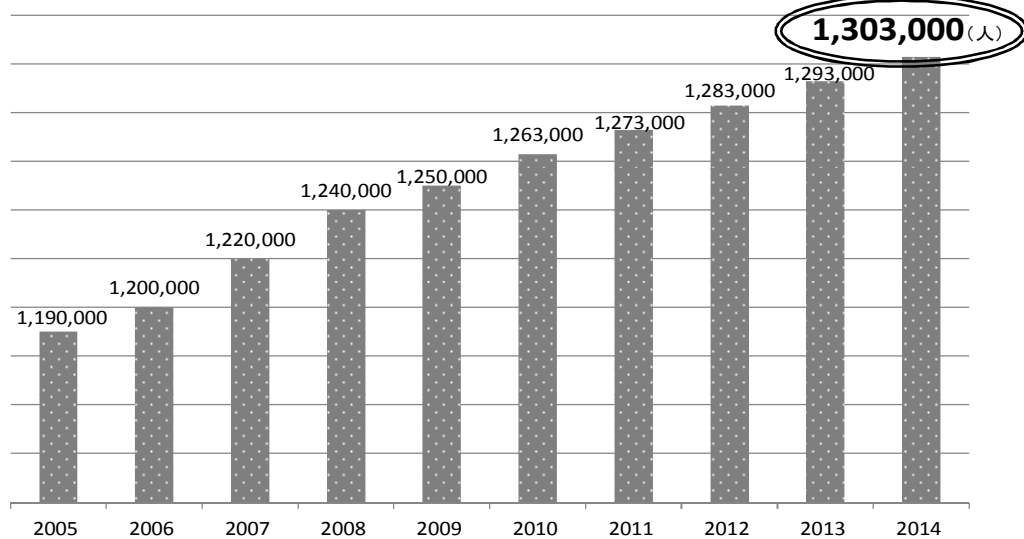
書きそんじハガキ累計 約1020万枚を突破※



建てられた寺子屋 約520棟※



寺子屋で学んだ人数 約130万人※



※2005年～2014年の累計人数。43カ国1地域におよびます。

ご参考(都道府県ランキング)

【書きそんじハガキCP 2015】 都道府県ランキング(ベストテン)

2015.11.26. 作成

No.	都道府県	県内で特に多かった地域	回収枚数が多い理由
1	鹿児島県	鹿児島県全域	県内の小・中・高等学校(約1000校)のほか、地方自治体、ロータリークラブ、企業が協力。地元新聞社やテレビのニュースでも呼びかけてくれている。
2	富山県	富山、南砺、氷見	県内の小・中・高等学校や保育・幼稚園26園が協力。企業や労働組合、町内会、ロータリークラブなども協力。地元新聞や地元ラジオ局でも呼びかけてくれている。
3	大分県	大分県全域	県内の小・中・高等学校(419校)、私立学校が協力。地元新聞社も毎年協力。
4	岩手県	久慈、釜石、宮古、江刺、盛岡、遠野、一関、陸前高田、大船渡、水沢	学校や公共施設への回収箱設置。大船渡では、企業・ロータリー、市内全体で子どもたちが回収を呼びかけている。
5	群馬県	高崎、館林、大泉、前橋、桐生、沼田、安中碓井、伊勢崎、藤岡など	地元の新聞やタウン誌で呼びかけてくれている。
6	兵庫県	西宮、芦屋、尼崎、宝塚、伊丹、姫路、相生、三田	市役所の広報誌で呼びかけ、市民の協力を得られている。
7	北海道	室蘭、札幌、稚内、岩内、小樽、苫小牧、江別、石狩	室蘭では、市内の高等学校の生徒が有志でポスターを制作し、6000枚印刷したものを商業施設や小・中学校に掲示し、回収を呼びかけている。
8	滋賀県	彦根、長浜	長浜市内の中学校が生徒会を中心に学校ぐるみで回収活動を進めた。子どもたちの協力が新聞に掲載され、さらに市民の協力を得られた。
9	山口県	岩国、下関、山口、萩、防府、長門、宇部、光	県内の各地域で協力してくれている。
10	熊本県	熊本県全域	民放や新聞等メディアでの呼びかけている。

※2014年12月～2015年10月の期間、ユネスコ協会から送られてきた枚数をもとに、ランキング。
ユネスコ協会がない県や市区町村もあります。

ユネスコ世界寺子屋運動とは

戦争や貧困など、さまざまな理由で教育の機会に恵まれない子どもや大人のために、「学びの場＝寺子屋」を世界に広げていく運動。1990年に開始。寄付や募金、書きそんじハガキキャンペーンなどの運動を通じて集まった支援により活動を展開しています。

日本人の一方的な支援（建設やプログラム）では、終了と共に村人たちも興味関心がなくなり、建物自体も使われなくなってしまうがちですが、世界寺子屋運動では、村びとや現地行政の方々と協力し、共に考え、企画し、支援方法を構築していくことで、現地の方々自身が自らの活動であるという意識を高め、自立と村の活性化を目指し、展開しています。

書きそんじハガキキャンペーンとは

書き間違えや、古くて使用しないなどの理由で投函されていない未使用ハガキを回収するキャンペーン。キャンペーンを通じて集まったハガキを募金に変え、寺子屋運動の展開に使用しています。

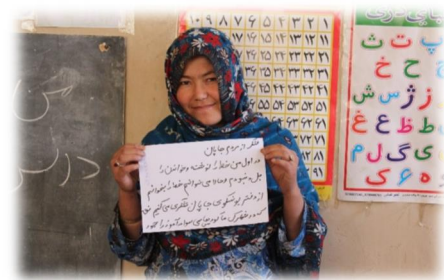
- 11枚の書きそんじハガキで、カンボジアではひとりひと月学ぶことができます
- 未使用切手やプリペイドカード500円分でも同等の支援ができます。



現地からの声



学校（寺子屋）に通えるようになってとてもうれしいです。日本の皆さんが私に勉強するチャンスを与えてくれたおかげです。ヴァン・チュークさん（12歳・カンボジア）



日本人びとに感謝したいです。以前は読み書きができませんでしたが、少しずつ勉強しています。私の村で識字クラスを開いてくれてありがとうございます。ガル・チャマンさん（24歳・アフガニスタン）